

村松地区 村政懇談会

日 時：平成28年6月22日（水） 午後7時から9時まで

場 所：村松コミュニティセンター 多目的ホール

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計10名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員3名） 計6名

自治会長（照沼区，宿区，川根区）

副自治会長（原子力機構箕輪区） 計4名

自治会連合会（会長，事務員） 計2名

参加者：宿区19名，照沼区10名，川根区8名，原子力機構箕輪区3名，

その他41名，未記入1名 計82名

司会進行：照沼区自治会長

総計104名

《次第》

開会のことば

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 村松地区副自治会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 村松地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会（自由質問）

閉会のことば

《記録》

【4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明後の質疑】

川根区住民：予算について質問したい。広報とうかいで平成28年度の予算合計が333億円くらいだと見た。原発交付金というのだろうか，原発が動いているときと動かないときでどれくらい金額が変わるのか。それと先程話があった火力発電所の税収を教えてもらいたい。財政的にかなり厳しくなってくると思うのでお願いしたい。

村長：税収交付金等だが，電源交付金は原電の施設とサイクルの施設がメインで，東電はほとんどない。電源交付金は，ざっくり言って原電で5億，サイクル関係7億で，合わせて12，13億。これの総額は今のところ変わっていない。みなしで貰っている部分もあり，稼動に係わらず，100万キロワットの動力に応じての金額になっている。そこはだいたい12，13億である。常陸那珂火力発電所については，2号機ができたときに，22億くらい入ってきている。運転開始した翌年に償却資産として入った税収は22億。ただそれは減価償却があるので，1年で3，4億目減りしてい

村松地区 村政懇談会

る。10年くらいかけてどんどん減っていく。65万キロワットがどれくらい入るかは分からないが、ざっくり言えば、100万キロワットの半分になるのならば、10何億入るとなんとなくは分かる。ただ皮算用なのであまり言わないようにしている。そういう事で、よく言っているのが、今後10年くらいについて、税収は減ってはいるが、村の財政力指数は今1.5くらいあって、地方交付税の不交付団体だが、村が交付団体に転落することはまずないと思っている。65万キロが入れば増えるのは分かっているが、それをみなくても下がってはいくが、皮算用では3年から4年くらいでまた少し増えると思っているので安心感はある。

照沼区住民:資料「持続可能なまちづくり」のポイント7の定住人口の確保について。多分昨年この村政懇談会で質問が出たかと思うが、照沼小学校の児童の数が4月1日付けで90人、昨年は確か98人くらいいたと思うが少し減った。定住人口の確保といっても、多分中心市街地が中心になるのかと思う。周辺地区でも定住人口の確保をしないと、ますますこの地域の人口が減って子ども達がいなくなり、せっかく立派な学校を作っても宝の持ち腐れになりかねない。常陸那珂港の玄関口の開発については、ひたちなか市長砂地区と共同歩調を取らないと進まないとは思いますが、いつ頃までにそのような検討を行うのか、以前も質問したかと思うがそのあたりの考え方を述べてもらえればと思う。

村長:発言の通り、村全体の人口は微増である。子どもの数も中丸小学校は増えている。照沼小学校が90人をきっていて88人であり、そこは危機感を感じている。太田団地がなくなったところを村営住宅にしてみても色々な意見を言う方はいるが、いずれにしても結局は原子力機構の色々な人員整理の中であるが、職員がいなくなってしまう困って、あそこが単に住宅地にしても住む人がいなくなってしまう。やはりそうすると雇用をきちんと守ることが必要であり、住みやすい環境として提供したい。この村松地区に定住を促すにはどうするか、国道245号の拡幅に併せて、公園的なものや観光的なものもそうだが、ビジネスになるものがあったり、人が往来するとか、その中でこの地域の良さを分かって住んでみたいと思えるような仕掛けも必要である。もう一つは常陸那珂港の北線だが、本当はあの先が照沼笠松線という都市計画があるが、正直ここは県に要望していてもなかなか厳しい。そのため、国道245号と駆け上がり線をどうするかになる。村としてできることをやっていくしかない。今のところ国道245号を中心とした、阿漕ヶ浦周辺を整備すると言っているが村松保育所の跡地を含めて、後は茨城東病院の辺りをどうするか考える時期だと思っている。オオカミ少年にならないように私自身もしっかり頭に入れて考えていく。

【5. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答後の質疑】

川根区住民:事前質問の一問目を出した。協議するという事で回答をもらったので、

村松地区 村政懇談会

是非お願いしたい。それだけである。

照沼区住民：事前質問の一問目について。余計な事は考えず、さわやかトイレ前の虚空蔵尊入口信号から旧道まで渋滞するのだから、早く二車線にすれば良い。

宿区住民：大強度陽子加速器施設からの専用道路という話が大分前に出て、宿の旧道を通るのは困るということで検討がなされ、新川に橋をかけるなどの話を少し耳にしたが、この辺の進捗具合がどのようになっているのか伺いたい。

村長公室長：国道245号の拡幅にあわせて原科研のフェンスの関係があり、その放射線の施設からの境界の影響と測定し、評価をし直さなくてはならない、という話がある。それに併せて阿漕の反対のあたりから、J-PARCのほうに向かっていく村道を使っていくという事で検討はしている。ただ放射線管理区域との境界の話もあるので、まだ実際にそこで具体的に進めるという話までは聞いていないという状況である。足りないかもしれないが今のところそのような状況である。

【6. 自由質問】

宿区住民：2点、要望と質問をさせてもらう。まず1点目だが、国道245号の拡幅工事について。茨城県の大宮土木事務所の管轄だが、現時点で用地買収が99パーセント完了しており、地区は一日も早い着工を望んでいる。2020年のオリンピックまでに終わるのかと心配している方もいる。そのような状況の中で東海村役場から大宮土木事務所に説明会を要請してもらいたい。先程の交通渋滞の話もあるため、地区の住民は本当に心配している。

もう1点は村松保育所の跡地計画について。昨年の8月に整備基本構想を説明会で聞いたが、阿漕ヶ浦周辺整備と一体で整備するというので、その整備構想について是非とも早急に説明会を催してもらいたい。よろしく御協力をお願いしたい。

建設農政部長：まずは国道245号拡幅の整備状況について説明したい。東海村は核燃料サイクル工学研究所から豊岡までのおよそ3.8キロについて国道245号の拡幅を県で事業を実施しているところである。県からは豊岡までの7割の用地取得が完了していると聞いている。また、朝夕の渋滞が著しい3つの交差点については先行して工事を進めている。まず、核燃料サイクル工学研究所と原科研前の2つの交差点には右折レーンを設置するなど、暫定的な改良工事が完了したところである。原電前のT字路交差点は、昨年度用地取得が完了し、今年度保安林の解除等の手続きを進めてなるべく早く工事に着工したいとのことである。また今年度は豊岡地区の一部の用地買収にも取り掛かっていると聞いている。宿地区については、まだ用地買収が済んでいない方がいるため、引き続き今年度は用地買収に力を入れて実施していきたいと聞いている。また、工事については、用地買収の進捗状況等を見ながら一団の土地が確保できるところから随時実施していくというように考えていると回答を貰っている。また目標はいつまでかという事だが、今のところ目標として5年間、平成32年度に

村松地区 村政懇談会

豊岡まで開通したいと県から聞いている。

2点目の阿漕ヶ浦周辺の村松保育所跡地の計画状況について。阿漕ヶ浦周辺地域については、阿漕ヶ浦周辺の遊歩道の整備や村松保育所、宿幼稚園の一元化に伴い、これまでの施設の跡地利用についてなど様々な要望がある。そのような中平成31年に開催される茨城国民体育大会では阿漕ヶ浦公園がホッケー会場となっており、国道245号線の4車線化整備や五反田線延伸道路用地の利用も含めて、村松地区は様々な事業や計画が集中しているところである。この地区は村松虚空蔵尊や大神宮があり、参拝や観光客で賑わい、最近では大空マルシェなども開催されるなど多くの人が集まる地域である。このようなことから、周辺地域の調和のとれた整備を推進し、当該地区の活性化を図るために、庁内関係課で阿漕ヶ浦周辺における課題の整理や、「阿漕ヶ浦周辺」「細浦青畝」「村松周辺」「旧保育所幼稚園用地」の構想パース図について取りまとめ、昨年8月17日に宿区の自治会役員会で説明したところ。今後の進め方について、4つのエリアの中で「阿漕ヶ浦周辺エリア」については、平成31年度開催の茨城国体に向けてホッケー場の再整備工事を発注したところである。今後245号からの進入路の整備や阿漕ヶ浦周辺の遊歩道の整備を実施していく。残る3つのエリアについては構想パース図を元に地域の活性化に寄与できるような具体的な計画を地域の方々と策定していきたい。具体的にその計画名は仮称ではあるが「村松周辺地域活性化計画」として、策定にあたっては関係者から広く意見を聴取するため「(仮称)村松周辺地域活性化計画策定委員会」を立ち上げ、計画をまとめていこうと考えている。

照沼区住民：村長の説明の中でも少し出たが、原子力災害時の避難計画について、5月19日に村松コミセンで説明会があった。私は参加できなかったのだが、話を聞くと参加者があまり多くはなかったとのことだった。めったに避難が必要になるような事故は起きないと思うが、いざというとき住民全員が行動しないといけない。再度説明会をお願いしたい。

村民生活部長：自治会あるいは地区自治会等から要望あれば説明に伺いたいと考えている。

照沼区住民：22箇所の防犯灯の設置ありがたい。一つ要望なのだが、駈上線の歩道について、押延十文字から動燃の入り口までがかなり狭い。自転車と歩行者が共用している部分であると思うが、防犯灯設置も含めて人が二列くらいで歩けるように拡幅できないか検討してもらいたい。

建設農政部長：歩道の拡幅についてだが、現在自転車の通行方法が変更となり車道を通ることとなっている。車道側に自転車レーンを設置できないか検討していく。

川根区住民：買収などで歩道や車道を拡幅することは無理ではないか。

照沼区住民：傾斜地、例えば土手の部分なんかを利用して拡幅を検討するなど、現道

村松地区 村政懇談会

のなかでなにか工夫できないか要望しておく。

建設農政部長：動燃線の状況を十分に把握してはいないが、動燃線は駐車帯があるところもあったと思う。まずは現地調査する。買収は考えていない。歩道を広げるにしても現道のなかで工夫できないかと考えている。

照沼区民：コミセンは建設から30年近く経っている。高齢化社会で年齢の高い人が自治会を守っている中で、会議をするのに2階を使うしかない。和室を使うことが少なくなってきていると思うので、会議室として一階の和室を使えるよう見直す必要があると思う。

村民生活部長：高齢化社会で見直さなければいけない点は様々ある。例えばエレベータの設置等の方法も含め検討させていただく。

宿区民：245号の拡幅で懸念がある。大宮土木事務所に確認してもらいたい。宮前橋の基礎は松材が使われている。7年前の住民説明会で指摘あったが、計画に入っているか。なぜこのようなことを言うのかといえ、すぐ北側に洞門があり、車が通るたびに段差ですごい地響きがする。建設時に対応しておかないとそういうことになる。恒久的な実績のある工法で計画しているのかを確認してもらいたい。

宮前橋と旧動燃の間に信号機をとという話もあったのだが、無理みたいなのでここで話すのは控える。

建設農政部長：確認のうえ報告する。

宿区民：救急車が入れない村道がある。まずいと思い、村報にある村民提案に書いて出したが返事が来ない。これは失礼である。村道であるならせめて救急車と消防車が通れるように、入れなければ点検をして、入れるようにするよう努力がほしい。その道の近くの住民に、役場の職員が来たかと聞いても来てないと言う。いくらでも拡幅できそうな場所であるにもかかわらず知らないふり。何回も手紙も出しているが、その返事は当たり前の立派な返事で納得できないようなものである。村道くらいは救急車が入れるようにしてもらいたい。役場ではそのような状況を把握しているか。

建設農政部長：要望については把握してない。質問者のところに行って確認する。何か手違いがあったのかもしれないが、把握できておらず申し訳ありませんでした。

照沼区民：人口を増やすには職場がないと、と村長が言っていた。以前は地元から原子力関係の雇用があった。原子力関係がこれ以上伸びないということだが、村長の説明にあった常陸那珂港がある。火力発電や日立建機など周辺に会社はあるようだが、東海村から雇用されているという話を聞かない。東海村やひたちなか市は率先して雇用してもらえよう事業所と話を進めてもらえればと思う。

村松地区 村政懇談会

村長：常陸那珂港は非常に発展しているが、正直火力発電所等の雇用があまりない。機械は大きいですが、そこまで人はいない。製造業も機械化も進んでおり難しい。可能性としては、港に荷物が届くということで、仕分け倉庫などが集まってくるので、おそらく後背地には流通関係の企業が張り付くというところ。一つの企業で多くの雇用が有るとはいえないが、少しでも多くの企業が張り付くようには考えていきたい。先ほどの村民レターの件については申し訳ない。私もすべては見きれていない。担当課である程度整理している。全てを村長が管理することは不可能であるため、私に変わって部長にやってもらいたい。部長で判断できないことは私が指示を出すか、ある程度は部長で判断し、やっていいと言っている。どういう回答をするにしても、それが伝わっていないのは役場の不手際なので、どういう経緯で返事ができていなかったのかは調べる。ネットのメールも含め、今後は全てにきちんと回答は出す。それが受け取った方にとって満足のいくものではないかもしれないが、最低限の礼儀は果たすことを約束する。

川根区民：村長に聞きたい。県でシニアカードというものを出している。自分も貰った。買い物に行ったら1日と15日しか使えないとのことだった。東海村の商店街があるが、東海村でシニアカード出すならもっと使える店を増やした方が良く思う。消費を促すためには薄利多売を意識したほうが良い。

村長：シニアカードは県の施策であるが、県のキッズカードが好評で、これも使える日が決まっている。プレミアム付き商品券のときにシニアカードを持っている人は、さらに2,000円使えるということで、皆さん取得したのだが、東海村で使える店が少ないのは事実である。協力店の募集はあくまで県でやっているのだが、村も商工会と話をしながら協力してもらえよう願うしかない。何かのきっかけでも地元で買い物してもらえようになしてもらいたい。県の施策だろうがなんだろうが、使えるものは使っていく。村としては、今年はプレミアム付き商品券をやっていない。他の市町村ではやっているところもある。やはり商業を喚起するという意味でいうと、どれ程波及効果があるのかはわからないが、商工会とそういったことも相談して、できるだけ地元で買い物をしてもらえような、きっかけ作りは考えていく。

宿区民：虚空蔵尊の前に住んでいるのだが、先程話しに出ていた245号を迂回して虚空蔵尊の前を通り抜ける車についてだが、朝、本来であれば梅原屋の前に止まれの標識があるので止まるのだが、横断歩道と止まれの線が消えており、車はまったく止まらずにカーブしていく。子どもも多少はいるので、安全上問題がある。また、観光地でもあるので整備してもらいたい必要がある。

もう一つ、大神宮と虚空蔵尊に分かれて入ってくる場所だが、両方から車が来ると、両方とも止まってしまって、どちらが優先かわからない。我々は昔あったはずだとい

村松地区 村政懇談会

うことで止まっているが、初めて通る人はわからない。その辺りを整備してもらいたい。

建設農政部長：止まれと停止線は警察の管轄なので、大至急警察と協議して対応する。優先の件については後日現地にて相談できればと思う。

照沼区民：火力発電所が一基、二基、今年の10月から三基が稼働するが、東海村には見晴らしのいい海岸が豊岡から阿字ヶ浦まで続いていたが、きれいになくなってしまった。豊岡海岸へは久慈川から行けるが、村松海岸へは行く道路がない。あっても砂利で、高齢者が行けるような場所ではない。東電、サイクル、役所、大宮土木事務所等で協議し、新川の河口まで行ける道路を造ってほしい。また、これだけの火力発電所が3基できる中で、避難道路が照沼の一箇所なのか阿字ヶ浦に抜けるのかはわからないが、避難道路として使えるような形に計画してもらい、造ってもらいたい。

建設農政部長：県とも協議していきたい。もう一点、関連して地域整備計画の中で一緒に、どのような道路形態になるか、観光的なことも含め、活性化につながるよう検討していきたい。

宿区民：天神山を整備しだして3年程。上の平地の刈払いが終わって、見渡せるようになった。城跡が垣間見えるようになってきた。先日、城郭研究家の方と役場職員と歩いた。あの中に古墳があり、その部分までは開発の手は入らないと思っていたが、太陽光発電が迫ってきている。学術研究とは言わないまでも、記録として重要ではないのか。古墳と天神山の調査をして記録を残してはどうか。将来に向けての我々の宿命ではないかと思う。

教育次長：実はあそこは文化財保護法に定める埋蔵文化財包蔵地、要するに遺跡になっているので開発できないよう網がかかっている地域になっている。

記録調査ということになると、基本的には埋蔵文化財は埋めたまま保存するのが原則。開発する場合にはきちっと保存収集することとなっている。今堀りあげられている土器や石器は通常の工事に伴って採られたもの。なのであの場所はわざわざ掘って調べるといふわけにはいかない。網掛けをしてあるので、たとえ誰かが掘ろうという場合には、文化財保護法の複雑な手続を踏まないということがあるので、あの場所が何者かにあらされたり、なくなることはすぐにはない。ただ、おっしゃるとおりに重要な土塁や溝などが特徴的な形で有るのは教育委員会でも認識しているので保存に努める。

宿区民：この話は前から重々知っていて、そのような答えが返ってくるかと思っていたらそのとおりでだったので、質問した意味がなかった。本当に放っておいて、そのまま残っているか。草が生え、風雨にさらされれば崩れるのではないか。確固たる信念があるわけではないが、村はせっかく未来と古代を結ぶ施設を造るという中で、そのような答えが返ってくるならば、これからは観に行かない。あまり村からお金を

村松地区 村政懇談会

もらうと、そのルートにのって仕事をしなければならないので、できるだけ補助を貰わず自分でやるようにしている。そうしないと今みたいな答えが返ってくるので非常に不愉快である。

教育次長：何もしないで残しておくのが良いと考えているわけではない。近いところで真崎古墳群を地元の方々と丁寧に保存、保持している。やはり木などが茂っている状態にしたままにしておく、木の根が地下の埋蔵文化財等に悪影響を与えるということもあるので、適切な管理が必要だと考えている。

村民生活部長：追加で説明させてもらう。質問者や宿区の皆様には非常にお世話になっている。天神山の清掃等をやってもらい、さらにワークショップをやりながら、どのようにしたら天神山を保存できるだろうということ、4、5回会議をやり、計画を作っている。村としてもどういう形で保存していくのが良いかということ、環境政策課の方でやっている、そういう頭で環境政策課がまとめてくれるので、あとはまともまともにしていくのが良いのではないかと説明だったと思う。買収の話等があるのかもしれないが、宿区の方と清掃活動を通じて、考えて行きたい。

教育長：私も昨年天神山を歩いてきた。今度できる（仮称）歴史と未来の交流館をコアにして村全体が博物館という風に持って行く中で、例えば村松晴嵐から真崎浦を見渡したときに、江戸時代の名所旧跡のすごい景観になっている。あの場所から天神山を見た景観は、江戸時代すごい観光地だった。そういうことで天神山は大事にしているので、例えば（仮称）歴史と未来の交流館をコアにして、そういった史跡があることをしっかりと伝えていく役がある。質問者の気持ちを十分受け止めているので、理解いただきたい。

司会：天神山については、平成27年度までワークショップをやったが平成28年度は計画していない。宿区では、毎年ボランティアで集まって草刈なんかをやっている。今、執行部から説明があったが、村としての考え方や方向性を地域と話してももらわないと地域はこういう風に進んでいいかわからない。今後は村と話し合いながら、または村の考えを地域に話してもらいながら保全活動を進めて行きたい。

照沼区民：防災について伺いたい。過日の新聞で30年以内に震度6弱以上の地震が水戸市で81%と出ていたが、東海村でもそのような情報が来ているか。聞いているなら対応を聞かせてもらいたい。

村民生活部：新聞で見たが、東海村ということではなかった。水戸市近辺という形になってしまうのかなと思う。防災計画は毎年見直しているが、地区で防災訓練等を行なってもらっているので、その際に質問してもらえば、それに答えながら一緒に防災訓練をやっていきたいと思う。

照沼区民：お願いになるが、原子力災害を想定した防災訓練も大事だろうが、自然災害も含めた防災訓練も一般住民も参加できるような形で計画してもらえればと思う。

村松地区 村政懇談会

照沼区民：毎回質問しているが、大字名について。村松は大きい。我々が子どもの頃は村松といえば宿であった。今村松と言うと真崎，押延のほうになってしまって，ここは村松コミセンなのに，初めて来た方は真崎の方に行ってしまう。真崎も800戸くらいあるのだから，村松は村松，真崎は真崎，押延は押延という大字にしたほうがわかりやすいのでは。行政区と同じようにしたほうがわかりやすい。

村長：気持ちはわかるが非常に難しい。私も最初は村松コミセンでも照沼小学校。村松小学校に真崎コミセン。整理できなかった。住居表示を変えるのは大変。区画整理地内，駅西第二地区がほぼ完了してきて，富士山線のところだが，舟石川駅東と西で，完成したら駅西何丁目とつけようとしていたが，舟石川駅なんてないだろうということになって，最終的に大山台としたのだが大変だった。区画整理地内でもそうであるから，これだけ広範囲の村松では大変。個人の生活等も係わってくるので，よほどのことがないと難しい。区画整理で何かつけないといけないということで，最終的に合意してもらったところがある。できれば整理したいが難しい。

照沼区民：村松に限らず村民にとってうれしい話なのだが，卓球の吉村選手がリオ五輪に出場する。生まれも育ちも中学校まで東海村である。こういったことが町や村であった際には，激励のイベント等をやっていると思う。例えば駅や庁舎に横断幕などをして村民に知らせたほうがよいと思う。村として考えがあれば聞きたい。

教育次長：大変喜ばしいニュースである。質問者からあったように，吉村選手は東海村で生まれ，小学校を東海村で過ごし，中学校に上がるときに宮城県に行って，中学校の途中で山口県に行った。高校も山口県で，大学は愛知工業大学だったと思う。全日本選手権や世界でも活躍している非常に誇らしい選手。村のほうでも村民に広く知らせようと考えた。実は吉村選手は大学卒業と同時に，今年の4月にプロの専属契約を結んだ。名前を使うのもコンサルタント会社に了解を取らなければ使えない。早速村で接触し，営利目的ではないということで，コンサルタント会社としては構わないとのことだった。しかし，オリンピックや五輪などという言葉を使うことはJOCから禁止されているということで，JOCから許可をもらってくださいとコンサルタント会社から言われた。JOCに問い合わせたがなかなか回答をもらえなかった。最終的にはコンサルタント会社と話をつけ，役場庁舎に懸垂幕ということで「リオオリンピックおめでとう。吉村真晴選手。東海村出身 卓球団体代表」という文言だったと思うが，発注済みである。まもなく皆さんのお目にかけることができると思う。また，できたらホームページや広報東海にも載せたいと思うが，コンサルタント会社の権利が及んでいるので相談しながら進めて行きたい。いずれにせよ，吉村選手がオリンピックに出場するという事で，皆さんに東海村の誇りということで伝えていきたい。

村松地区 村政懇談会

宿区民：吉村真晴選手について。プロ契約したが、一方で茨城県のスポーツ専門委員でもある。県の保健体育課だと思うが、その辺りと話をしてみれば違う道が開けるのではないか。もう一つ、東海村は茨城国体でホッケーの会場となっており、ホッケー大会を利用する話は先程村長からでた。一義的にはホッケーそのものを盛り上げないといけないと思うが、村は何かやっているのか。東海村から選手は出せそうか。地域が応援し、盛り上げるようにしなければと思う。

教育次長：吉村選手については、県の保健体育課、卓球協会、体育協会とも話をしたが、基本的にはプロの専属契約の方と話をしてもらいたいとのことだった。ホッケーが国体の会場となり、村で何をするのかということだが、今年度中に実行委員会を立ち上げ、来年度実行委員会が動けるように調整している。東海村の選手が国体に参加できるようにという話については教育長から。

教育長：吉村真晴選手が茨城県のスポーツ推進委員になっているということは、茨城国体のときに茨城県代表で出場する。そして茨城県の実力のある選手はそういった形で、表現は悪いが抱え込みをするというか、お願いをしている。ボルダリングをやっている小林文具店の娘さんも、同じように他の県に取られないうちに抱え込んでおくというようなこと。ホッケーについては、東海中学校男子ホッケー部が昨年度全国大会に行っている。その子ども達が茨城国体の少年の部で活躍するようになる。着実に力は上がっている。女子の方も、東海南中学校に女子ホッケー部ができて8名程度いる。それは、ホッケー協会のメンバーが小学校に訪れて、興味関心を持たせ、子ども達を中学校ホッケー部に引き上げようとしているからである。力を入れているのでご理解いただきたい。

宿区民：力を入れているのはわかるが、何を強化するのかを競技団体とよく相談して、村ができることをやってもらいたい。

以上